

令和3年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 石川 和明

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～統計的な見方・考え方を生かした算数科の授業づくりを通して～
地域に開かれた教育課程

2 研究主題設定の理由

令和元年度から海田中学校区で道徳教育改善・充実総合対策事業メニュー3の指定を受け、本校では、「特別の教科 道徳」と「総合的な学習の時間」及び「生活科」の学習を中核としながら、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。そのことを土台とし、昨年度からは「特別の教科 道徳」に加え、CRT で全校的に課題の見られた算数科を研究教科の中核に据えるとともに、育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・表現力」「主体性・自己理解」に焦点化し、授業改善に取り組んできた。

単元構成や学びのサイクルによる学習過程の工夫を通して、課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業づくりを行うとともに、教師による発問の工夫、「思考スキル」の明確化、話し合い形態の工夫、思考の可視化など、思考の場を充実させるための工夫を行うことで、根拠を明確にし、互いの考えを積極的に伝え合い、より思考を深めたり広げたりする児童の姿を実現していくとともに、児童の学びを省察する場の工夫を行うことで、学びをつなぎ、自己の変容に気付いたり自己肯定感を高めたりすることができるような振り返りの場を充実させてきた。

これらの取組により、根拠を意識しながら互いの考えを伝え合おうとする姿が、少しずつではあるが見られるようになってきた。また、対話的で協働的な学びを意識した授業づくりへの教員の意識は、さらに高まってきている。一方、自分の考えを積極的に伝えたり、根拠を明確にししながら多様な方法で表現したりしようとするには、課題が残った。また、児童の知識・技能をつないだり、思考をより深めたりできるような教師の発問の工夫や、単元全体を見通しながら、課題解決につなげる学習の振り返りの場を意図的に設定したり、時間を十分に確保したりし、振り返りの内容を次の学習に生かすことなどには、引き続き課題がみられる。

昨年度までの課題をふまえ、今年度は、「教育課程実践検証協力校」として、「算数科」を中核とし、データの活用を柱とした教育課程の編成に取り組むとともに、タブレット等を効果的に活用しながら、目的に合ったデータの収集・分類・整理・考察を行う統計的な見方・考え方を生かした学習過程の工夫により、問題解決を図る授業づくりを推進していく。昨年度に引き続き、教師による発問の工夫、「思考スキル」の明確化、話し合い形態の工夫、思考の可視化など、話し合い活動を充実させた思考の場の工夫を行うことで、根拠を明確にし、互いの考えを積極的に伝え合い、より思考を深めたり広げたりする児童の姿を実現したい。また、児童の学びを省察する場の工夫を行うことで、学びをつなぎ、自己の変容に気付いたり自己肯定感を高めたりすることができるような振り返りの場として充実させる。

また、児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るため、児童の実態や課題をふまえ、学校全体が共通認識のもとで、学習基盤としての学習環境づくりと集団づくりや、支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化、読書活動の推進、スキルタイム（のびっこタイム）等の取組を推進していく。

3 研究仮説

対話的で協働的な思考の場を充実させた授業づくりを行えば、主体的・協働的に学び、自分の考えを深めることのできる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

- 課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業
 - ・アンケートやレディネステストによる児童の実態把握
 - ・単元構成の工夫 「単元デザイン」の作成
(学年1以上の算数科データの活用領域における「単元デザイン」を作成する。)
 - ・学びのサイクルによる学習過程の工夫 学習計画による課題の共有
「導入」「思考を深める」「振り返り」
 - ・マネジメントサイクルに基づくカリキュラム(年間指導計画)の評価・質的改善
- 話し合い活動を充実させた思考の場の工夫
 - ・既存の知識・技能をつないだり、活用・発揮したりできるような発問の工夫
 - ・「思考スキル」の明確化
 - ・思考ツールや板書による思考の可視化
 - ・話し合い形態の工夫「ペアトーク」「グループトーク」
 - ・根拠を明確にした多様な表現活動
- 学習としての「評価」の充実
 - ・児童が学びを省察する場の工夫
 - ア 「振り返り」の視点の明確化(学習内容・自己変容・自己肯定感)
 - イ 学びのつながりを意識した振り返り
 - ウ ポートフォリオの活用(ノート、ワークシート等)
 - エ ルーブリックによる評価(自己評価、他者評価、教師の評価)

(2) 環境づくり

- 児童の意欲を育む学習基盤づくり
 - ・協働的な学級集団づくり
 - ・学習規律の徹底
 - ・授業のユニバーサルデザイン化
- 日常的な取組
 - ・読書活動の充実(読書タイム、読み聞かせ)
 - ・スキルタイム(のびっこタイム)の充実

5 研究の方法

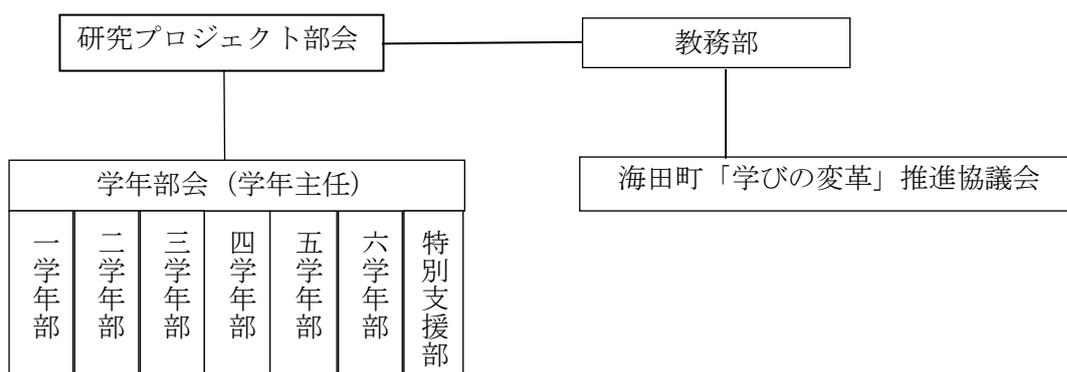
- (1) 理論研修(研究主題に関わる共通認識)
 - 育成したい資質・能力の定義の共有
 - 教科の特性を生かした授業づくりのポイント
 - 学級集団づくりや学習環境づくりの視点の共有
- (2) 授業研究(一人一回以上の授業研究を実施)
 - 授業実践を参観し、視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ、有効な手立てについて検証するための協働的な研究授業
- ・前回までの研究授業の課題を改善し、提案する研究授業
 - ア 学年部会で、「単元デザイン」（単元構成）の作成を行う。
 - イ 学年部会で、指導案を作成，検討，修正する。必要に応じて，他のクラス等で事前授業を実施する。
 - ウ 全体授業研究を行う場合は，指導案提案による事前研修を全体で実施する。必要に応じて，他のクラス等で事前授業を実施する。
- ・「算数科」の授業研究を行う。（専科や特別支援学級については，研究主題に沿うものであれば教科を問わない。）
- ・「単元デザイン」は，事前に研究主任と連携し学年部で検討・作成してから，本単元の学習に入ることとする。
 - ※レディネステストを実施し，児童実態の把握後作成を行う。
- ・学習指導案の起案は早めに行い，授業の2週間前までに決済を受け，研究主任に提出する。
- ・学年部で3日前までに印刷，配付を行い，参観者は事前に熟読する。全体授業指導案は講師の先生にも2週間前には送付する。
- ・授業終了後には，授業者は，協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を1週間以内に作成し，起案する。
- ・学年授業研究は，必要に応じて他学年も参観及び協議会に参加できることとする。
- ・初任者研修の示範授業と兼ねることができる。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 研究授業の検証（成果物，授業記録（グループ又は児童観察），事後協議）
- (2) 学力調査の結果分析
- (3) 児童及び教職員の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科・日本語教室担当は各学年部に入り，研究に参加する。

※専科・日本語学級担当の授業研究は，授業実施学年の該当する学年部会で検討を行う。

※全体研究においては，授業記録（写真）及び指導案印刷配付・協議会会場準備などの役割分担を行う。

※学年研修は，学年主任が中心となり研究主任と連携しながら該当学年部で運営を行う。

8 具体的な研修計画（予定）

月	研究内容
4	校内理論研修 本年度の研究推進について
5	校内理論研修 カリキュラム・マネジメントについて
6	校内理論研修 本質的な問いについて
8	校内研修 全国学力・学習状況調査分析
10	校内研修 構造的な板書，ノート指導について

9 全体研究授業計画

実施時期	学級	教科	授業者	単元名・教材名
6月下旬	4-1	算数	菅	折れ線グラフと表
10月上旬	6-3	道徳	山根	ばかじゃん！ B-(10) 友情・信頼
10～11月	3-1	外国語活動	栗栖	アルファベットとなかよし
11/24	6-1	算数	田村	データの調べ方
11月下旬	6-2	算数	岩本	算数で読みとこう「情報通信技術の進化や利用について調べよう」※文科省教科調査官来校
1月	5-2	算数	木本	帯グラフと円グラフ
2月	4-2	道徳	石井	花丸手帳～水泳・池江璃花子選手 A-(5) 希望と勇気，努力と強い意志